回覧

所沢市環境推進員連絡協議会会報

所行回第３６５号
平成２８年３月発行

豊かなみどり　あふれる笑顔　みんなで明日をつくるまち所沢

第２７号

所沢市マスコット

トコろん

環　境　会　報

所沢市環境推進員連絡協議会　　発行責任者　会長　毛利　吉成

「絆」づくりは「ごみ集積所」から

所沢市環境推進員連絡協議会　会長　毛利　吉成

環境推進員の皆さまにおかれましては、本来の責務でもある所沢市の環境施策への自主的な協力と環境保全の為の諸事業の実践活動を行っております。おかげさまで、本年度も順調に推移いたし感謝申し上げます。今、所沢市は、東日本大震災当時、誰もが思った「人と人の良好な関わり」の大切さ、「人と自然との良好な関わり」など絆や自然への畏怖の念を形にしていくための新たな基本計画が策定され諸施策が展開されています。

特に、環境面では、第２期環境基本計画と併せて「未来と子どもを育む」を基本理念にエネルギー、水・みどり、そして資源循環を施策の中心に据えた「マチごとエコタウン」構想による新たな展開がされております。その創造に向けた事業への協力、普及啓発にも推進員のご理解と協力をお願いしております。

「井戸端会議」という言葉があります。かつて、人たちは、共同井戸に集まり、水くみや洗濯などをしながら世間話や噂話など、コミュニケーションの場ともなっていました。密なる人と人のつながりの場でもあったようです。

今は、各戸に給水される水道になり、生活環境からは井戸そのものが無くなり、「井戸端会議」なる言葉も死語になりつつあります。同時に、便利さを享受する中で、人と人の絆も希薄になってきてしまいました。最近、決められた収集日の「ごみ集積所」の前で、家庭ごみを出しながら、ちょっとした「あいさつ」が交わされている光景を見かけます。普段、お付き合いのない関係が、次に会う時は、少し近づいた会話に繋がっていくのではと・・・「井戸端会議」の井戸の場が「ごみ集積所」に、そして「絆」づくりは、このような所からも紡がれていくような気がします。

“決められた日･時間”に“資源化”“再利用”そして、しっかり分別して出すなど質の高い環境モラルの構築に尽力されている推進員の皆さまの地道な普段の普及啓発や地域活動のおかげと感じております。

４月から古着・古布の集積所収集が始まります

資源循環推進課

市民の皆さま方におかれましては、日頃よりごみの減量・資源化に多大なるご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

市では、平成２８年４月から毎月１回、小型家電製品とあわせて古着・古布の集積所収集を開始することとなりました。燃やせるごみ組成分析を実施した結果、燃やせるごみの中には古着・古布が約４％含まれていたことから、資源化を図ることにより焼却処理量を減らし、温室効果ガス（CO_2）の排出量を削減するなど、「マチごとエコタウン所沢構想」の推進をしていくものです。

なお、古着・古布の集積所収集の実施に伴いまして、これまで環境推進員の皆さまのご協力のもと行ってまいりました「古着・古布・陶磁器拠点回収」につきましては、平成２８年度から再利用の促進イベント「もったいない市」として実施することとなりました。

再利用のできる古着・古布・和服などにつきましてはできる限り「もったいない市」にお持ちいただきますようお願い申し上げます。

詳しい内容につきましては、３月に各ご家庭にお配りする「家庭の資源とごみの分け方・出し方」に掲載いたしますので、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

環境推進員研修会に参加して

「何が出来るか」は「もったいない」に連動

吾妻地区　室岡　典行

埼玉県が設置した埼玉県環境整備センターを視察しました。センターには２つの目的があり、廃棄物の処分地を自ら確保することが困難な市町村の為に最終処分場を確保することと、リサイクル関連の工場を誘致して資源循環工場としての機能があります。

埋め立て事業は、広大な敷地に計画的で安全重視の進捗実態とその説明を受けました。

埋立地には、マット、シート、保護土そして廃棄物を五層にして積み上げていく、サンドウィッチ工法で埋め立て済及び予定地が各所に点在しておりました。

私たちの市民生活を守り支えていく、ごみの問題は一般も企業にも切実な課題となっております。

「ごみ減量化への取り組み」も認識から実行へと環境の変化が現れてきつつあります。

「人為的な部分」を考えると、「何が出来るのか」は「もったいない」に連動しております。

今回の視察研修は、環境推進員としての自覚を再度見直した一日になりました。

第１７回エコプロダクツ２０１５見学ツアーに参加して（東京ビックサイト）

ＣＯＰ２１合意直前のグッドタイミング

並木地区　丸山　信一郎

私自身以前迷子になったほどの広い会場図を参加者全員に配布して戴いた心遣いに感謝しつつ今回の見学コース絞り込みを考えていたら東ホールビジネスステージで池上　彰さんが講演メンバーに載っていました。日頃テレビ欄では必ず見落としの無いようにしている方ですのでそれもナマでお目にかかれるナンテ絶好の機会とばかり直行しました。ところが１２月１２日（土）の講演となっておりました。でも当日は、日頃食育教育で発言の多い服部　幸應氏が講演されるとのことで他のブースを回ってから参加しました。

各県コーナーではどのようなテーマで出展しているか興味があったので一回りしたところ、わが故郷新潟県ではカーボンオフセットと謳う目新しいテーマに取り組んでおり、県独自の温暖化対策として目立っていました。

昨年、環境講演会で講演していただいたＣ.Ｗ.ニコルさんとは森林整備の点では共通するものがありました。世界的なＣＯ$_2$排出量権利の売買取引制度よりは、前向きであると感心しました。

途中、新製品開発の多くをエコをテーマに努力される事で有名なアイリスオーヤマのブースに立ち寄り、話を伺いました。ＬＥＤ照明の更なる開発と数年後には製造輸入とも廃止が最近決定された蛍光管の分別・回収に積極的に努力されている姿が印象的でした。

帰りのバスの中では、各地区メンバーによる情報交換を活発に行いました。

また「会場内エコツアー」と言う各プロジェクト別施設コーナーの無料ガイドがあり、私も初回では利用し大変役立ったことを思い出し、次回からは必ず紹介すべきと感じました。

環境講演会

ほんとうの環境問題は・・

新所沢東地区　魚島　克巳

早朝は厳しい寒さの１月２７日　環境講演会の当日を迎えました。

受付開始の３０分前、１２時過ぎ窓越しに外を見ますと、数人の方が入場を待っている様子。早速外に出てお声掛けをし、入場していただきました。心配していた参加者も次々に来場、１・２階席がほぼ埋め尽くされた頃に本番スタートです。

藤本市長をはじめ主催者側より３人、来賓として桑畠市議会議長のご挨拶の後、池田清彦早稲田大学教授が登壇、講演が始まりました。

さすがに人気ＴＶ番組「ホンマでっか!ＴＶ」に出演の講師だけあって、軽妙でウイットに富んだ喋りで、あっという間の７５分でした。

環境問題＝地球温暖化＝二酸化炭素削減関連のお話かなと想像していたのですが・・。本当の環境問題とは、人類に影響を与える問題のことで、食糧問題であり、エネルギー、人口問題、そして資源問題であるという。地球温暖化防止のため、日本は世界に対し、非常に厳しい二酸化炭素削減目標を掲げています。そしてその目標の達成に向け、国、企業、国民を総動員し、多大な資金を投入しています。一国でコントロールしようとしても出来ることのない、将来に向けた地球規模の温暖化防止に資金を投入するより、現時点で予想される問題や、発生した後の対策等に向けるべきなのかもしれません。

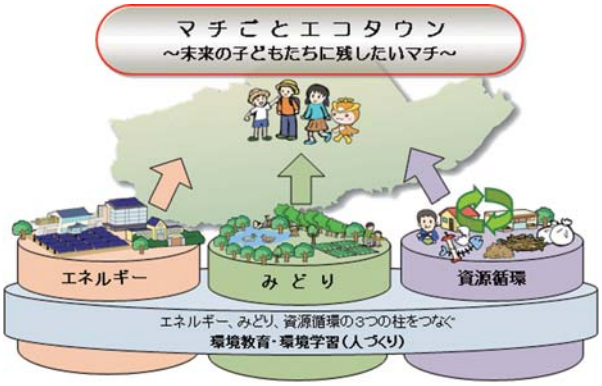
池田先生は、食糧の自給率は３９％だが、エネルギーのそれはわずか４％である。日本の環境問題は、目前の課題であるエネルギーをどう確保するかだという。地熱、太陽光、風力、原子力等、いろいろな角度から実施、実験をしているが、安全面やコスト面等、長短所あり現状の水力・火力発電に代わるものは現時点では難しいようです。将来有望だというバイオマス・藻類利用でエネルギー（石油）を作る研究も進んでいるようで、し尿を分解して石油を取り出す藻類のことも紹介していました。結局のところ、食糧問題も、温暖化ガス規制も、エネルギー問題も、人口が減れば少なくなるということでしょうか。

マチごとエコタウン所沢構想について

環境政策課

市では東日本大震災を契機とし、エネルギー・資源に過度に依存してきたライフスタイルの転換や「もったいないの心」に基づき、ものを大切に使っていくといった基本的な人の生き方に立ち返るとともに、地域の貴重で豊かなみどりを守り育て、「人と人、人と自然との絆」を大切にする「エコタウン」を築くために平成２６年３月に「マチごとエコタウン所沢構想」を策定しました。

当構想では「エネルギー」「みどり」「資源循環」を３つの柱として各種施策を実施し、市民の皆様への普及・推進に務めているところです。今後も家庭で省エネを実施していただく「実践!省エネエコファミリー大賞」など、市民が主役の施策を実施し、「未来の子どもたちに残したいマチ」を目指して取り組みを進めてまいりますので、地域の環境活動のリーダーである環境推進員の皆様におかれましては今後もご理解・ご協力をよろしくお願い致します。



マチごとエコタウン所沢構想イメージ図

環境コラム

海をただようプラスチックの害

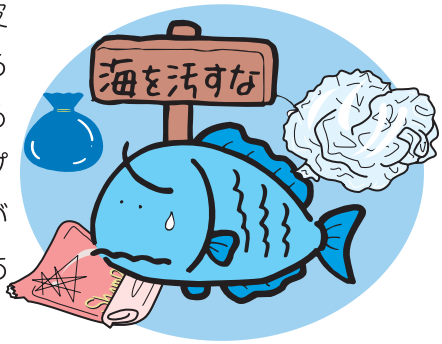
東所沢　丸山　千尋

世界経済フォーラム（本部：ジュネーブ）は、現代生活の必需品プラスチック製品が、このまま増え続けたら、２０５０年までに海にただようプラスチックごみの量が魚の量を越してしまうというショッキングな報告を発表した。

それによると１９６４年の１５００万トンから２０１４年の３億１１００万トンと５０年で２０倍以上に急増、今後２０年間でさらに倍増すると予測している。

この結果、毎年少なくとも８００万トン分のプラスチックが海に流出、このままリサイクルの対策を練らないと２０５０年までに海にただようプラスチックの量が魚の量を上回る計算である。

その原因がプラスチックの便利さとじょうぶさにあるというのも皮肉である。プラスチックは外圧または熱で変形されると元の形に戻らないし圧力や熱を加えていかようにも生活に便利なものに変えられる便利さ・じょうぶさがリサイクルの障害になっている。その結果、プラスチックのリサイクル率はわずか１４％で、紙類が５８％、鉄鋼が７０％ぐらいと大変な違いである。今こそ世界をあげて知恵を出しあいプラスチックのリサイクルに全力を注ぐことが急務である。



吸い殻拾集散歩パトロール

新所沢東地区　佐藤　英治

八十路を迎え、足腰の衰えを感じ、気軽に町内散歩を始めてみました。それは防犯帽・ジャケット姿で約１時間、６０００歩目標の警戒散歩パトロールでしたが、回数を増すごとに、道々のポイ捨て吸い殻の多さに、軽快な気分も削がれてしまいました。

そこで、「計数機付き吸い殻拾集用具」を考案し、ポイ捨て吸い殻を拾集しながらの散歩パトロールに切り替えることにしました。約３か月で、７０回を超え、吸い殻拾集数は６０００本超、たばこの箱数に換算すれば３００箱分にもなっていたのです。昼間帯の人目に留まる「吸い殻拾集散歩パトロール」が、地域防犯・環境美化・住民との触れ合いの場へと発展し、自身は妻の老々介護ストレスも発散され、最近は「朗々快護？」の気分となり「一石二鳥」の効果です。

これからも健脚維持で「北所を環境の町、防犯の町、誇れる町に！」をモットーに、無理のない範囲で続けていきたい。

（北所沢町　環境部サポーター）

編集後記

市職員による年末一斉清掃・・・

年末の１１月２５日、１２月１７日の早朝、始業前の７時３０分から約１時間程、市役所有志職員による、市役所周辺街路樹の落ち葉清掃が行われました。

航空公園駅前交差点からミューズホールに向かう歩道脇に溜まった落ち葉や、航空公園寄りの庁舎周辺歩道の落ち葉清掃です。

気持ちのいいお正月をみんなで迎えよう。今や年末の恒例となっていますが、平成２４年から行われているそうです。来庁者を気持ちよく、お迎えする「おもてなし」の市職員の心意気をこんな所でも発揮していました。（MO）

編集委員（◎印は委員長）
◎荻野 義雄（三ヶ島）、魚島 克巳（新所沢東）、久下 紀世（新所沢）、新居 亨一（山口）

事務局：所沢市 環境クリーン部 生活環境課
☎０４－２９９８－９３７０

所沢市のホームページ
http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/
トップページ ⇨ くらし ⇨ 環境・みどり ⇨ 環境 ⇨ 環境推進員連絡協議会についてを選択してアクセスしてください。